

みなみかぜ



南台病院 広報誌

平成 29 年 6 月 Vol.12

骨粗しょう症について

放射線科

骨の強度が低下して、骨折しやすくなる骨の病気を「骨粗しょう症」といいます。骨粗しょう症により骨がもろくなると、つまずいて手や肘をついた、くしゃみをした、などのわずかな衝撃で骨折してしまうことがあります。直接的に生命をおびやかす病気ではありませんが、骨粗しょう症による骨折から、介護が必要になってしまふことも少なくありません。骨粗しょう症は痛みなどの自覚症状がないことが多く、定期的に骨密度検査を受けるなど、日ごろから細やかなチェックが必要です。

当院でも予約なしに検査を受け付けています
ので、ご利用ください。



「無料なんでも医療相談」のご案内

日 時：第5週を除く水曜日、午後 3 時～3 時 30 分

場 所：南台病院 外来診察室

※事前の予約は不要ですので、受付窓口又は外来看護師まで、お気軽に声をおかけ下さい。

実施日	担当	実施日	担当
6月 7日(水)	勝見副院長	6月 21日(水)	看護部
6月 14日(水)	リハビリテーション科	6月 28日(水)	薬剤科

※過去の相談内容：介護保険の申請方法について

家族が認知症となり、どう関わっていけば良いか

特養と老健とはどのような違いがあるのか など

＜赤血球の役割＞

赤血球は肺で酸素を受け取り全身の細胞に送り届け、細胞で不要になった二酸化炭素を肺に運んでいます。赤血球数は、一般的には男性の方が女性より多い傾向にあり、女性は生理の影響により少ない傾向にあります。また、年齢による変動は、新生児期(生後4週間まで)にやや多く、幼児期(満1歳～満6歳)には成人とほぼ同じ値となり、高齢者になると成人より少なくなる傾向にあります。妊娠後期では循環血漿量の増加により赤血球が減少する傾向となり、高地居住者や喫煙者は赤血球数が多い傾向となります。

＜貧血の原因＞

貧血とは、赤血球を作るために必要な材料である、鉄分、葉酸、ビタミン12が不足している場合や赤血球を作る場所である骨髄が病気や機能異常になったために赤血球が作れない状態、また、外傷による出血、消化管等内臓からの持続的な出血、まれには脾臓の機能亢進などにより赤血球が過剰に喪失した状態をいいます。

貧血は、ヘモグロビン値検査で診断されますが、心配のないものから重症のものまであるので、正確な診断にはヘマトクリット値検査を行います。

参考基準値

項目	男性	女性
赤血球数	427～570万個/ $\mu\text{ l}$	376～500万個/ $\mu\text{ l}$
ヘモグロビン値(Hb)	13.5～17.6g/dl	11.3～15.2g/dl
ヘマトクリット値(Ht)	39.8～51.8%	33.4～44.9%

当院では祝日を除く毎週土曜日の午前・午後とも診療を行っております。
ご利用下さい。

診療受付時間（月曜日～土曜日） 午前：8時30分～11時30分
午後：1時～4時

社会福祉法人黎明会 南台病院 〒187-0032 東京都小平市小川町1-485
電話番号：042-341-7111（代） ホームページ：<http://www.minamidaihp.jp/>